

---

soundless voice

嵐炎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

s o u n d l e s s   v o i c e

### 【コード】

N 0 9 6 2 Z

### 【作者名】

嵐炎

### 【あらすじ】

迫り来るあの方の最後。

迫り来る親友の最後。

迫り来る標的の最後。

迫り来る生徒の最後。

声を出せずに叫ぶ。

## プロローグ（前書き）

こちらは

「soundless voice」で他の守護者やリボーンがメ  
イン視点です。

## プロローグ

今日最初に見たツナの顔は、何だか儂い表情をしていた。

「…何かあったか、ツナ」

「…やっぱりお見通しか」

ツナはオレにある事を話してくれた。

今日、死ぬ事を。

…信じられねえ。

そんな事、信じたくもねえよ。

頭の中がぐちゃぐちゃだ。

「…そうか。ついに来たのか」

こんな言葉、言いたくねえ。

「…うん」

「うん」とか言うなよ。

泣きたくなるだろ。

「…大丈夫か？」

「…今も信じたくないんだけどね」

そりゃそうだ。

いきなり夢で今日死ぬなんて言われて大丈夫な奴なんかいるはずがねえ。

「…とりあえず起きようかな」

ツナは体を起こす。

一瞬どこか痛そうな顔をしたが、すぐに普通の顔に戻した。

「だな。皆下で飯食ってるぞ」

「うん、行こっか」

苦笑してツナは言う。

「…先に行つててくれ」

ツナは不思議そうな顔をしたが

「分かった」

と言って下に降りていった。

軽く壁を蹴った。

「…くそっ」

何で。

何でだ。

何で病気はツナを選んだんだ。

まだ24だ。

なのこ…

いくら何でも…早すぎるだろ…？

まだツナも生きていたはずだ。

他の奴らと笑っていたはずだ。

なのに。

どうして病気は悪戯をするのだろうか。

シャマルのトライデント・モスキートでも回復は望めなかった。

また壁を蹴った。

泣きたくなる。

でも一番辛い思いをするのは俺じゃねえ。

真実を何も聞かされていない他の守護者だ。

特に獄寺や山本はかなりのショックを受けるはずだ。

いつも一緒にいたから。

そのメンバーがいきなり居なくなってしまう。

そう考えると、あの二人が可哀想で仕方ない。

だから泣くわけにはいかねえ。

でも

俺だっでずっとずっと一緒にいた。

あの二人より長くいた。

…少しぐらい

泣いたっていいよな…？

「  
…っ  
」

床に水滴がぼたぼたと落ちる。

声を殺して俺は泣いた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0962z/>

---

soundless voice

2011年12月3日19時02分発行